

小売事業者のリサイクル状況

福祉事業所の回収状況



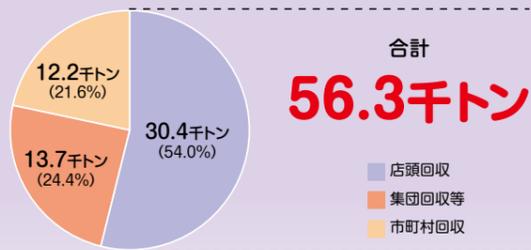
スーパーマーケットなどの店頭回収BOXで多くの紙パックが回収されています。

家庭からの紙パック回収の半分以上を占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収BOXからの回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っています。2015年度の店頭回収量は30.4千トンで前年度より1.5千トン減少しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

(所在地: 東京都品川区)

取組事例

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社は、1995年に米国スターバックス コーヒー インターナショナル社の合併事業として日本法人を設立し、現在は全国に1,198店舗(2016年6月末時点)を有する規模に成長しています。

同社はミッションで「地域のお客様と丁寧に向き合うこと」を心がけており、コーヒー豆かすのリサイクルや、マイカップをご持参のお客様に資源節約にご協力いただいたお礼に割引をするなど、環境活動にも熱心に取り組んでいます。紙パックリサイクルを始めたのは2005年。多い店舗で1日100枚以上使用する紙パックを資源として活用するために開始し、当初は店舗数の多い関東・関西地区のみの実施でしたが、全国11か所の物流センターのネットワークなどを活用してエリアを拡大し、2014年からは全国どの店舗でも実施可能になりました。

今日では同社の代表的な環境活動の一つに位置付けられており、回収された紙パックの総量は年間約1,000トンに及びます。お手拭やペーパーナプキンに再生され店舗で再利用されることで、「目に見える・手に取れる」リサイクルとしてお客様や従業員にも好評です。



「スターバックス」店舗

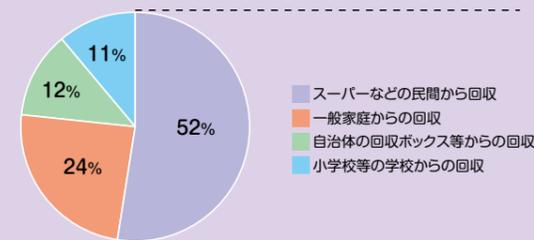


紙パックからリサイクルされたペーパーナプキン

福祉施設では紙パックの回収と紙パックを使った様々な製品作りを行っています。

福祉施設の回収先は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが多いほか、一般家庭から、自治体の回収ボックス等から、小学校等の学校からと、多岐にわたっています。また、多くの施設では、回収・受け入れた紙パックを主に回収業者に引き渡しています。

福祉施設の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

就労継続支援B型事業所 アルシオン

(所在地: 静岡県三島市)

取組事例

就労継続支援B型事業所アルシオンは、特定非営利活動法人「にじのかけ橋」の運営事業のひとつとして2011年に開設され、地域と連携しながら障がいを持つ方々に就労と社会生活の機会を提供しています。

紙パックのリサイクルを開始したのは2014年5月。三島市内の6つの小中学校と「にじのかけ橋」の5つの事業拠点で紙パックを回収し、アルシオンで検品・裁断等を行っています。ユニークなのは、回収した紙パックを再生紙メーカーに送り、トイレ用ペーパーに再生してもらい、それを障がい者が手書きで彩色した紙で包装し、商品として三島市民生涯学習センター内の店舗「すてっぷ」で販売していることです。

こうした活動を通じて回収された紙パックは、アルシオン単体で16,680kg、法人全体では31,630kg(平成27年度実績)に達しました。さらに、学校での回収の際に作業を手伝う児童や生徒同士の交流が生まれるなど、障がい者の就労支援、リサイクル、環境教育を同時に実現できる事業として注目されています。今後は回収ネットワークの拡充に加え、意識醸成のための地域イベントの実施など、新たな活動も検討しています。



回収され再生紙メーカーに送られる紙パック



紙パックから再生されたトイレ用ペーパー

市町村回収・集団回収の状況



紙パックの回収は
全国の約9割の自治体で
実施されています。

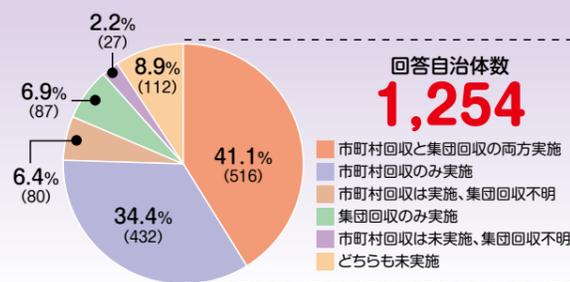
2015年度調査は全国1,741市区町村のうち、福島原発事故の影響が残る7町村を除いた1,734の自治体を対象に実施し、1,254市区町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の88.1%になります。

調査では、市区町村や一部事務組合などが行う回収を「市町村回収」、市区町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が82%、集団回収が不明を除いて53%*でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施しているのは89%です。全国の約9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

*集団回収実施率=(集団回収を実施した自治体数)/(回答自治体数-集団回収実施不明の自治体数)×100(%)=(516+87)/(1,254-(80+27)×100%)=53(%)

市町村回収と集団回収の実施率



自治体の取組や集団回収に
よって21.0千トンの紙パックが
回収されました。

市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2015年度は市町村回収量が12.2千トン、集団回収量が8.8千トンで、合計では21.0千トンでした。

1人あたりの回収量(原単位)をみると、市町村回収は、町村や一般市が大きく、政令指定都市や東京特別区では小さくなっています。また、集団回収は、一般市や政令指定都市が大きくなっています。両方を合計した回収原単位は、一般市と町村で大きく、政令指定都市や東京特別区などの大都市で小さくなっています。

より多くの紙パックを回収するためにはどのような施策が必要であるか、各地域の実情に合わせて検討を進めることが課題といえるでしょう。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収	推計量(千トン)	12.2	8.8	1.1	0.7
	都市類型別回収推計量比率	100%	73%	9%	6%
	一人あたりの回収量(g)	95	110	39	77
集団回収	推計量(千トン)	8.8	6.5	1.7	0.2
	都市類型別回収推計量比率	100%	73%	19%	2%
	一人あたりの回収量(g)	68	80	61	22
合計	推計量(千トン)	21.0	15.3	2.7	0.9
	一人あたりの回収量(g)	163	190	100	99
	都市類型別人口(百万人)	128	80	27	9

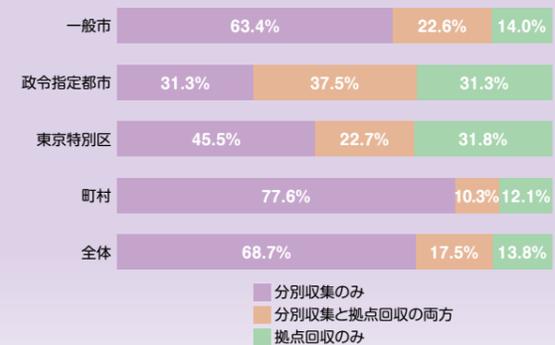
*四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

紙パックの市町村回収は
分別収集方式や拠点回収方式
で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市町村を都市類型別にみると、一般市と町村で分別収集方式が多く、政令指定都市と東京特別区では拠点回収方式が多くなっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

愛知県犬山市

取組事例

「人が輝き 地域と生きる“わ”のまち」を目指す犬山市は、人口約7万4千人で愛知県の最北端に位置し、国宝である犬山城や、木曾川の鵜飼で知られ、中心部には古い町並みが残る歴史ある町です。

環境省のデータでは、紙パックの行政回収量は41トン(2014年度)、市民1人あたり年間549gで全国トップレベルです。容り法の施行以来、市が資源の分別収集に積極的にかかわっており、市内各地区に約500ある集積場で月2回収集が行われ、収集日にはびん・缶・ペットボトル等と同様に紙パック専用の回収かごが置かれます。自治会の方が交代で立ち番をする地域が多く、市民のリサイクル意識の高さがうかがえます。

地区のステーション以外にも常設の「わん丸エコステーション」や、月1回開設の回収拠点3か所を市が運営していますが、近年は回収業者がスーパーの店頭やホームセンターの駐車場等で独自に運営する拠点の利用が増えており、市が回収する紙パック量は減少。排出場所の増加は市民にとって便利である一方、行政回収量があまりに少なくなると市民への還元も減少することが今後の課題です。



集積場に置かれた回収かご



1枚から出せる紙パック

学校のリサイクル状況

再生紙メーカーのリサイクル状況

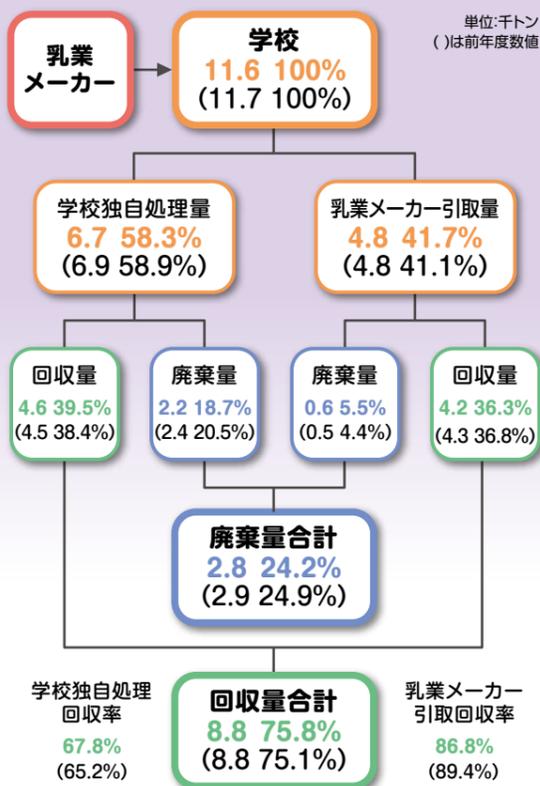


学校給食用牛乳の紙パックの
リサイクルも引き続き高い比率で
推移しています。

2015年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度とほぼ同じ11.6千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは8.8千トンで引き続き高い比率で推移しています。

小学校では学乳パックのリサイクル以外にも、理科や算数などさまざまな授業での再利用や、家庭からの紙パック回収活動などが行われています。

2015年度の学乳パックのマテリアルフロー（推計値）



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

岡崎市立山中小学校

(愛知県岡崎市)

取組事例

山中小学校は、家康出世の地といわれる岡崎市の南東に位置し、「雲の中より神樹の一片が、神霊を載せて舞い降りる」との事跡にちなみ、舞木町と名付けられた地区に建つ創立136年の歴史ある小学校です。子どもは「地域の宝」であるとし、家庭・地域との連携を深め、安全教育、情操教育を推進しています。

山中小学校では全学年でリサイクルを実施しており、新1年生に対しては4年生以上の給食委員が手順を教えています。また4年生からは総合学習の一環として、ペットボトルキャップの収集、牛乳パックの手すきはぎの作成、3R促進ポスターづくり等に取り組んでいます。紙の手すき道具は学校に常備されており、4年生の参観日には児童と保護者が一緒に手すきはぎを作るなど、環境やリサイクルに対する意識の向上・意欲づけにつなげる取組を行っています。

今後は更に児童の環境保護への意識を高めるため、児童がリサイクルに関わったものがどのように加工され、どのような再生品として生まれ変わるかを自らの目で見ることができるよう催しを検討しています。



常備している手すき道具

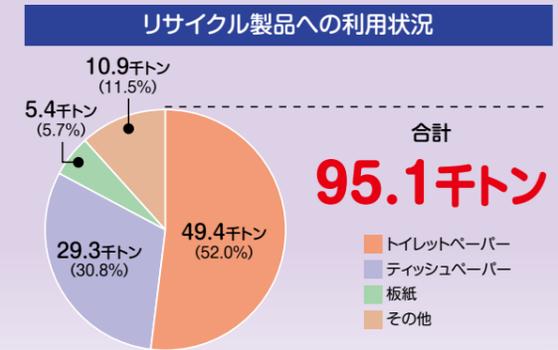


参観日に保護者と一緒に作成

回収された紙パックは
良質なパルプ繊維として
再生されています。

アンケートで回答を得た14社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済紙パックを受け入れているのは13社でした。

2015年度の国内紙パック回収量と紙パック古紙輸入量をあわせた総受入量は118.1千トンになり、このうち約81%の95.1千トンがトイレトペーパーやティッシュペーパーなどのリサイクル製品として生まれ変わりました。紙パックは良質なパルプ繊維として、これら製品の貴重な原料になっています。



取り組んでいます! リサイクル

コアレックス信栄株式会社

(静岡県富士市)

取組事例

コアレックス信栄株式会社は、2015年10月1日よりコアレックスグループとして、静岡県富士市に再生家庭紙新工場を建設し、信栄製紙株式会社から社名変更しました。

エネルギー効率の高い最新鋭設備の導入による製品品質の向上と生産の効率化を追求した「生産性」、近隣住民への配慮等から極限まで廃棄物を削減する「準ゼロエミッション化」を図り、環境負荷低減を推進する「環境性」、富士市・JR東海などと災害協定を締結し、災害時における地域住民や帰宅困難者の避難場所としての機能も兼ね備えた「地域防災性」の三大テーマを実現することをめざして工場の稼働を開始。防災防止や自然災害への配慮も工場の随所に見られます。

古紙生産工場としては国内最大級で、日量約200トンの再生紙原料を受け入れ、平均160トンの製品(主にトイレトペーパーとティッシュペーパー)を生産しています。日々再生古紙原料のチェックを行いながら、トイレトペーパーやティッシュペーパーへの適正配合により製品品質を確保するための貴重な原料として紙パックを使用しています。

また、近隣住民の方々からも直接古紙を受け入れる窓口を設けるなど、リサイクルの促進に大変積極的に取り組んでいます。



熟成タワー



抄紙機